

タスマニアの医療制度について～家庭医から学ぶ～

香川県立高松西高等学校

普通科 2 年 山下 花音

今回のタスマニアでの研修を通して、私はオーストラリアの医療制度の中でも、家庭医 (GP・General Practitioner) が地域医療において重要な役割を担っていることについて学びました。学校の授業に参加したり、ホストファミリーに話を聞いたりし、日本の医療と比較しながら学ぶことで、家庭医が地域の人々の健康を継続的に支えることの大切さを知りました。

オーストラリアでは、Medicare という公的な医療保険制度があり、GP はその医療制度を支える重要な存在です。GP は、発熱やけがなどの身近な病気の診療だけでなく、健康相談、予防接種、健康診断、生活習慣病など、幅広い役割を担っています。専門的な治療が必要な場合には、患者を専門医や病院につなぐ窓口としての役割もあります。

私が特に興味を持ったのは、GP が「病気になった時だけ利用する医師」ではなく、患者の健康状態を長期的に把握し、継続して支えていく存在であるということです。患者の生活習慣や家族構成、これまでの病歴などを知ったうえで診療を行うため、病気だけを見るのではなく、その人自身を理解した医療につながると感じました。

また、タスマニアでは地域によって医療機関へのアクセスに差が生じることがあります。特に人口の少ない地域や都市部から離れた地域では、専門医や大きな病院を利用することが簡単ではありません。そのような地域では、GP が幅広い知識や技術を持ち、地域の人々にとって身近な医療の窓口となることが非常に重要です。

オーストラリアでは、このような地域の医療を支えるために、Rural Generalist という考え方も重視されています。Rural Generalist は、一般的な診療だけでなく、救急医療など幅広い能力を身につけ、専門医療を受けることが難しい地域でも多くの医療ニーズに対応できる医師です。専門医が少ない地域だからこそそ地域の医療を幅広く支えることのできる医師が必要です。私は、看護師、薬剤師、理学療法士などの多職種連携が継続的に支えるために最も重要な事ではないかと考えました。

今回 GP について学んだことで、私は香川県の医療についても考えるようになりました。香川県には多くの島があり、島しょ部では医療機関や専門医へのアクセスが課題になる場合があります。タスマニアと香川県では人口的な地理条件、医療制度などに違いはありますが、「住んでいる場所に関係なく必要な医療を行えるようにする」という課題には共通する部分があると感じました。

私は将来、看護師になることを目指しています。今回の派遣事業を通して、医療者には病気やけがを治療するだけでなく、患者が暮らしている地域や生活背景まで考えながら支援することが求められていると感じました。家庭医を中心とした地域医療について学んだことを、これからの探究活動などを通して多くの方々に発信していきたいと思います。そして、

将来は、患者さんやその家族に寄り添い、地域の中で安心して生活できるよう支えることのできる看護師になりたいです。

このように今回調査をするにあたって、ホストファミリーに意見を多く聞くことが出来ました。そのおかげで、医療を受ける側のより、リアルな意見を聞くことが出来ました。ホストファミリーから得られた意見は今後の探究活動のテーマとしていきたいです。

最後になりましたが、今回の派遣事業を通して、普段の生活では学ぶことのできないタスマニアの医療や地域の暮らしについて知る貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。現地で学び、実際に見たり、体験したりした経験は、私にとって大きな学びとなりました。また、研修に関わってくださった皆様、現地で温かく迎えて下さった皆様にも心より感謝申し上げます。今回得た学びを今後の学習や将来に繋げ、これからも地域医療について深く考えていきたいと思います。



8月4日 ナーシングクラスでの体験授業